



使わなくなったランドセルの寄付を受け付けています。

「使わなくなったランドセルで笑顔になる子どもがいます」

ランドセルの始まりは明治二十年、大正天皇の学習院ご入学祝いに、伊藤博文が箱型の通学かばんを献上したことでとされています。明治三十年には、細やかな形状や寸法（縦一尺一寸、横一尺五分、マチ幅二寸五分）などが統一され、いわゆる学習院型が完成しました。以降、百年以上経過してもランドセルの基本的なスタイルはまったく変わっていません。また、「背負うことによつて、子どもの負担が軽減できる」、「両手が自由に使える」などの長所から、ランドセルは、小学生用の通学かばんとして広く普及していきました。（ランドセル工業会のHPより抜粋）

「ランドセルを寄付したい」「ランドセルを片付けたいが捨てたくない」

ランドセルは小学校入学して卒業まで毎日使う学用品です。六年間の成長の思い出が詰まっているランドセル、捨てるに捨てられず、たいがいは押し入れの中にしまわられたままになってい

ます。

「ランドセルを寄付して頂く事が、募金活動にもなります」

こども食堂サザンクロスでは使わなくなったランドセルの寄付を受け付けています。

こども食堂サザンクロスは、あらかじめ子ども応援ネットワークの一つです。食でつながる子どもの居場所として助けを必要とする子どもたちに学習支援や食事提供を週三回行っています。現在は、コロナウイルス感染予防のために集うことができないため、対象の家庭にお弁当を作り配布したり、食材の支援活動パントリーなどを取組んでいます。区の補助金、助成金、ボランティアの方々の熱意によつて運営されています。こども食堂は子どもにとつて大切な機会である「共食」と地域のコミュニティへの参加の機会になる貴重な場所です。ランドセル一個を寄付して頂くことにより数百円〜千円がこども食堂サザンクロスの活動費の一部として生きていきます。

「ランドセルに第二の活躍の場を」

寄付して頂いたランドセルは石川県の工房に送り、補修やクリーニングされきれいなランドセルとなります。その販売価格は新品の十分の一以下です。

「誰もがランドセルを背負えるように」

ランドセルの購入金額は平均五万三千

六百元と高額です。大半の方は半年前に購入を済ませています。このように高額なために学用品であるランドセルの購入に苦慮されている方は多くいます。少子高齢化による高齢者やひとり親世帯の増加と貧困率の上昇から格差は生まれていくという現状の中、見えな

い子どもとの教育格差があります。捨てればごみ、仕分ければ資源となるランドセルを寄付する事は多くの笑顔を生みます。

来春、新入生の誰もがピカピカなランドセルを背負えるように使わなくなったランドセル、寄付や社会支援のために再利用させて頂きませんか？



お問い合わせ

◇Tel3802-3338

あらかわ子ども応援ネット内（サザンクロス）ボランティアセンター

◇こども食堂サザンクロス

荒川区荒川5-33-10

ya-nan@xg7.so-net.ne.jp（南谷素子）